

特集論文の公募のお知らせ

2022年度日本選挙学会査読委員長

木寺元

2024年度日本選挙学会年報編集委員長

山本英弘

○特集「実験政治学の意義と課題（仮題）」

2024年度年報編集委員会は、『選挙研究』40巻1号（2024年6月末刊行予定）の特集として「実験政治学の意義と課題（仮題）」を設けることを決定いたしました。この特集は、編集委員会からの依頼論文と、会員からの投稿論文で構成したいと考えております。

実験的手法をテーマにした特集はすでに2014年に企画されていますが、それから10年間、実験的手法は目覚ましい進歩を遂げ、広く普及し、選挙研究ひいては政治学における因果分析の精緻化に貢献してきました。その一方で、本当に実験的手法を用いるべき場面なのか、実験的手法を用いることでむしろ看過していることはないだろうか等、研究が蓄積されてきた現在、今一度、立ち止まって反省する点もあるように考えられます。そこで、この特集では実験的手法の選挙研究や政治学における意義と課題についての論稿を募集いたします。

会員の皆様の積極的な投稿をぜひお願いいたします。

投稿締切日 2023年 8月 31日（木）

投稿要領、執筆要領は以下をご参照下さい。

<https://www.jaesnet.org/download/rules/JJES20200519.pdf>

○参考：査読スケジュールについて

現在、日本選挙学会は『選挙研究』論文投稿システムを通じて、投稿を受け付けています。受付終了後、査読委員会では、電子メールを用いた審議等を通じて、適宜、匿名査読者の選定、ならびに査読依頼をしております。したがって投稿から最初の査読結果が戻るまでに要する時間は、当該論文の完成度にもよりますが、約3ヵ月程度です。修正・再査読の場合、査読結果に応じて再投稿がなされてから、最終結果が出るまでにやはり数ヵ月程度かかります。修正・再投稿に要する時間にもよりますが、最初の投稿から最終結果の確定まで、約6ヵ月から7ヵ月の時間がかかると予想されます。

したがって、今回の特集の公募について、投稿締切日までに投稿すれば、翌年2月末までに査読のプロセスを終えて40巻1号に最終稿を入稿できることとなります。ただしこれは査読および再投稿が円滑に進んだ場合の想定ですので、必ずしも1号への掲載が保証されるわけではないことをご理解ください。

なお、査読を経て掲載が決定した論文につきましては年報編集委員長名で掲載決定の証明書をお出しすることが可能です。